

54期中央労働講座に参加して

今回支部からは一人の参加ということで不安と緊張の中、参加した労働講座でした。

全国から集まった仲間たちが続々と集まり、鈴木誠一中央執行委員長の挨拶にはじまり、中央執行部の方々に直接講義をしていただける機会は大変貴重なことなので、しっかり聞いて帰ろうと臨んだ講義でした。

講義が始まり、鈴木龍一副委員長からは今、社会問題となっている心の健康、メンタルヘルス問題、鈴木誠一委員長の講義では、私たちの港湾の歴史から組合が出来るまでの成り立ちを学び、畠山副委員長の講義では港湾で働く労働者にとってとても重要な、港湾運送事業法、港湾労働法の成り立ちその背景の講義をしていただき、その歴史をへて、橋崎副委員長の実体験に基づいた、詫間港運闘争の話をしていただきました。

そして講義のテーマについてグループ討論し、全国の地方の現状や自分たちの支部の話を交えながら各々の意見を出し合いました。

いろいろな意見や経験の話を聞いて、自分の知識の少なさに恥ずかしさを覚えましたが、自分なりの意見を主張したり、座長としてグループをまとめる力を養う場として頑張ったグループ討論でもありました。

討論の中で感じたことは、メンタルヘルスで悩む仲間をどのように助け、港湾労働者を守る法律を理解し、雇用を維持し改善することを目指してこれからの運動に生かしていきたいと思えます。

今後もし自分たちが置かれている環境の秩序が乱されたとき、我々組合員の背中のは後ろには、1万6千もの団結の力があると思うととても心強く感じました。

これから私たちは、全国港湾という産別組織の重要性を学び、質の高い団結力をはかり、時代の変化とともに組合組織というものをアップデートしながら成長していかなければならないと思えます。

そしてこれからの若い世代がどう感じどう受け継いで行けばいいのか、考えさせられる3日間でした。

橋崎副委員長の挨拶の中で、今回参加した仲間たちの名前と顔を覚えて帰りましょうの言葉。その言葉の通り参加者全員が一つとなり、3日間の討論を通して、グループの団結は生まれたのではないかと思います。

54期の仲間との時間は、私にとって心に残る大切なものになりました。

この労働講座で終わりではなく、また全国のどこかでこの54期の仲間たちと再会出来るのを楽しみに今後の組合活動を邁進して参りたいと思えます。

全日本港湾労働組合東海地方田子の浦支部

原田 和彦